



オリエンタル
コンサルタンツ

野崎 秀則 社長

総合化で社会課題解決

2018年9月期では2年前倒しで中期経営計画の目標を「すべての指標で達成すること」ができた。売上、利益とも過去最高を更新する中で、そのビジョンに掲げる「社会価値創造企業」の実現に向け、重点化事業の「総合化と研究開発」「人材の育成」そして「人材の確保」を課題に挙げて注力してきた。事業分野は『道路整備・保全』

『流域管理・保全』『防災』『交通運輸』『地方創生』『海外』の6つ。この中では、奈良県田原本町で全国自治体初の橋梁保全事業にECI方式を試行導入し、その効果を確認したほか、防災では東京都奥多摩町でのソフト対策の総合化支援など、地方創生では神奈川県開成町で地元酒蔵再生など指定管理や自主事業を通じた地域ブランドづく

りなどの取り組みを展開した。「社会の課題を解決するのがわれわれの仕事」とした上で、「社会は多様で広がりがある。その多様な課題を解決していくには総合的なアプローチをしないといけない。従来は技術・サービスだけでいいのか、もう1回問い直す。従来のビジネスモデルだけではある意味生き残れない」と「総合化」の意図するところを強調する。「事業それぞれの総合化だけでなく、すべての事業を総合化するエリアマネジメントのモデルができれば、社会価値創造企業にまた近づくことができるのではないかと」の考えも示す。研究開発では昨年10月に「A

がいプロジェクト」、3年前からは女性の定着と活躍をキーワードにした「Smile-3S活動」を推進してきた。今期からは野崎社長を委員長とする「働き方改革委員会」を立ち上げ、改正労働基準法に適合した時間管理をどう実現するか、さまざまなチャネルや機会を生かして議論を重ねてきた。これを集約整理する形で『就業環境改善ガイドライン』を作成。これは「常にブラッシュアップしながら全社で共有していく」とし、「意識に定着させるには何度も情報を発信し続けていく」と語る。

りなどの取り組みを展開した。「社会の課題を解決するのがわれわれの仕事」とした上で、「社会は多様で広がりがある。その多様な課題を解決していくには総合的なアプローチをしないといけない。従来は技術・サービスだけでいいのか、もう1回問い直す。従来のビジネスモデルだけではある意味生き残れない」と「総合化」の意図するところを強調する。「事業それぞれの総合化だけでなく、すべての事業を総合化するエリアマネジメントのモデルができれば、社会価値創造企業にまた近づくことができるのではないかと」の考えも示す。研究開発では昨年10月に「A

1（人工知能）推進室」を設置。「複数のプロジェクトが同時並行的に進んでいる。今期末には何らかの成果が出てくるのではないかと」期待を寄せる。「人材の育成・確保の延長上に働き方改革がある」というように、6年前から「情熱とやり

品質確保でも、「手戻りとミス防止を最重要テーマ」に、本社が一体となって全社の品質管理活動をモニタリングしながら「周知活動を徹底し続けていく」構えだ。